

## 六郷ピオニーズ ミニバス全県大会で準優勝を飾る 六郷小女子バス史上最高成績で3月の東北大会へ

1月13日に六郷ピオニーズの選手・コーチ、小松陽一六郷小学校長が役場庁舎を訪れ、1月5日から7日までの日程で開催された第39回秋田県ミニバスケットボール交歓大会で準優勝を修めたことを報告しました。決勝ではわずか2点差で新山チーム（由利本荘市）に破れ、惜しくも優勝に届きませんでした。六郷小学校女子バスケットボール史上最も上位の入賞成績を飾りました。報告を受けた松田町長は「県大会の悔しさは東北大会で晴らしてください。練習中の怪我や事故に注意して強さに磨きをかけ、東北大会でも頑張ってください」と声を掛けました。東北大会は3月20日から21日まで山形県天童市で行われます。



## 長寿祝い金を贈呈 梅川東治さんが満100歳に

12月24日に梅川東治さん（上中野町）が100歳の誕生日を迎えられ、梅川さんの自宅で松田町長から長寿祝い金を手渡されました。梅川さんは7人兄弟の長男として生まれ、24歳で結婚。農業を営みながら2男3女を育てました。「若い頃から100歳まで生きてみたいと思っていた」と言う梅川さん。夏場には散歩に出かけるほどお元気で、食事は家族と一緒に同じものを食べています。梅川さん、これからもお体を大切に長寿を重ねてください。

## 地域一体となった取り組みが評価されました 七滝土地改良区が「さなえ賞」を受賞

昨年12月28日に、七滝土地改良区の武藤威理事長が役場庁舎を訪れ、21世紀土地改良区創造運動で「さなえ賞」を受賞したことを松田町長に報告しました。同運動は、農業用施設の役割や自然環境の大切さについて、たくさんの人に理解を深めてもらうことを目的に行われています。七滝土地改良区では、茨城県つくば市と美郷町の小学生を対象とした水環境学習交流や七滝山で行われる「水の森」植樹事業など、町の水環境保全プロジェクトと連携して環境保全活動に取り組んでいます。受賞報告に訪れた武藤理事長は「町民の皆さんのご協力をいただきながら、さらなる活動に力をいれていきたい」と語っていました。



## 決意を新たにスタート 美郷町交通指導隊・防犯指導隊初出式

1月7日に役場庁舎で町交通指導隊（坂本専太郎隊長）と町防犯指導隊（進藤寅夫隊長）の初出式が行われ、両隊員あわせて約30名が出席しました。松田町長は「交通安全の徹底や犯罪抑止のため、様々な施策の中で安全安心を意識していきたい」とあいさつを述べました。出席者は、交通安全や防犯活動への決意を新たに、今年活動をスタートさせました。

## 箱根駅伝10区ランナー 小林駿祐さんが激戦のレースを報告

1月7日に美郷町金沢西根出身で青山学院大学4年の小林駿祐さんが役場庁舎を訪れ、1月2日、3日の両日に行われた第87回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）での激戦となったレースについて松田町長に報告しました。同大学陸上部主将で10区を走った小林さんは、10位でたすきを受け取り、終盤の激しい競り合いの中、9位でゴール。同大学のシード権獲得に貢献しました。松田町長からねぎらいの言葉を受けた小林さんは「昨年はケガのためチームに迷惑をかけていたが、主将として最後のレースでシード権を確保できてほっとしています。沿道やテレビで応援してくれた皆さんにも感謝しています」と語っていました。



## お父さんと一緒に料理に挑戦

1月9日に美郷町保健センターで父子チャレンジ教室が開催され、7組17名が参加しました。この教室は、日ごろ仕事などで子どもと過ごす時間が少ないお父さんに、父子一緒にのひとときを楽しんでもらう目的で行われています。参加者は、美郷町食生活改善推進協議会の会員に調理方法を教えてもらいながら、ハンバーグや野菜スープなどの料理に挑戦。子どもが持つ包丁に優しく手を添えたり、一緒にハンバーグの具材を混ぜる姿が見られるなど、父子の触れ合いの時間を楽しみました。



## 「段階的」

美郷町長 松田 知己

アルプレヒト・デューラー。有名なルネッサンス期のドイツの画家です。昨年末、その画家の版画・素描展を見る機会がありました。版画・素描という点で、「地味かな」と思いますが、会場に足を運びました。鑑賞一作品目からそう思った自分が恥ずかしくなりました。実にすばらしい作品で、油絵とは違うモノトーンの魅力に時間経過を忘れるほどでした。制作過程を想



美郷町芸術文化賞授与式であいさつを述べる松田町長

像せずにはいられない精緻な版画で、久しぶりに感動を覚えました。その感動の延長で、不遜にも画家になったつもりで制作過程を想像してみました。やはりはじめは全体構図だろうと思えます。次に光の表現、つまり印象の濃淡を決めての詳細イメージ。そして制作着手という段階的な制作過程だろうと思うのですが、絵を描くみなさんいかがでしょうか。私の専門分野、行政の仕事では、全体構図を決める構想、詳細イメージをまとめる計画、そして事業実施という流れが常道ですが、絵画制作もそれと同じプロセスではないかと思っております。さて、現在町では、こうした流れで一つの大きい仕事に取り組んでいます。学校統合に伴う空き校舎の利活用です。はじめから「〇〇小学校は何

に使い、□□中学校は何にしたい」という決め打ち手法もありますが、この課題は段階的な取り組み手法を選択しました。その第一段階が先月広報に掲載した活用方針案となるわけですが、住民検討委員会のご意見を踏まえ、いわば全体構図として構想をまとめました。その視点は、美郷全体で将来に必要な施設機能、つまり現在不足している機能は何かということです。そして次の段階が、どの学校に何の機能を持たせるかの詳細イメージ、計画となります。これも住民検討委員会からご意見をいただき、まとめてまいります。みなさんにもどうか、美郷全体の将来を考えたら、という視点でどこに何の機能を置くと良いのか、ご検討いただきたいと思います。

デューラーの版画・素描は、こんな思索も喚起してくれそうです。改めて思いますが、「いやあ、絵画って本当にいいもんだですね」（今は亡き水野晴郎風）。